

タマネギの紙筒育苗における配合土の理化学性

西村昭司郎・大熊正寛・白井美和・真鍋武夫

タマネギの紙筒育苗用配合土の診断指針をうるため、9種類の配合土を作成し、タマネギ苗の生育、配合土の理化学性およびタマネギ苗の無機成分吸収量を調査・測定した。その結果を要約すればつぎのとおりである。

1. 理化学性の異なる配合土に対して、タマネギ苗はきわめて鋭敏な生育反応を示した。このことはタマネギ苗の各形質間にみられる相関程度および乾物重についての要因効果を求めることによって裏づけされた。
2. タマネギの育苗用配合土には、11～13%の粘土を含んだ土壌を基土とした方が、砂土を基土にした場合よりも育苗しやすい。
3. タマネギの健苗が養成できる紙筒育苗用配合土の物理性は、容積重:71～100g,孔隙率:55～67%,保水性:38～44%,透水性: $1.10 \times 10^{-3} \sim 4.43 \times 10^{-3}$ cm/sec であることが確認できた。また配合土の化学性については、pH(H₂O):5.8～6.4 腐植:4.9～8.7%, T-N:0.16～0.40%, C/N:12～18,塩基置換容量 9.8～16.3m.e が優良配合土の診断指標となることが判明した。
4. これらの理化学性を具備した配合土は、バーク堆肥を50%混合した発泡樹脂系土壌改良剤を、壤土および砂壤土に25～50%配合することによって作成できた。